

【研究主題】思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究（国語科）

1 国語科における思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態

(1) 言語活動の充実の考え方

国語科における言語活動の充実とは、基本的な国語の力を定着させ、言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行うことを通して、実生活に生きて働き、各教科等の学習の基本ともなるべき国語の能力を培うことと捉えている。そのためには、児童生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けて指導事項を指導することが必要である。そこで、単元を貫く言語活動を具体化するためには、例えば、次のような手順で計画を立てることが考えられる。

ステップ1 単元で指導する指導事項の確認

学習指導要領、年間指導計画による指導事項の確認及び単元目標の設定

ステップ2 身に付けさせたい言語能力の具体化と重点化

指導事項の分析による、言語能力の具体化と指導事項の絞り込み

ステップ3 児童生徒の実態の把握

関心・意欲・態度、身に付いている（いない）言語能力、言語活動の経験の把握

ステップ4 教材の分析と補助教材・資料・教具等の選定

学習の目標達成に適切な教材選定と教材文の特性の把握

ステップ5 効果的な言語活動の設定

身に付けさせたい言語能力に最適な単元を貫く言語活動の具体化

ステップ6 指導計画の作成

単元の指導計画、1単位時間の学習計画の作成、発問、板書計画

(2) 実態調査の結果と考察

平成23年度に実施した実態調査の結果から、次の点が明らかになった。

ア 評価に用いる情報や資料に関しては、児童生徒の思考の様子を評価するために、「ノートやワークシート」を活用している割合や、「調べたことなどを基に考えたことを書いた文章」を活用する割合が全校種で高い(図1)。このことは国語科における「思考・判断・表現」を評価し、その後の確かな指導に生かすためには、ノートやワークシートに残された児童生徒の言葉を活用する必要があるという意識が高いことを表している。

イ 評価の判断をどうしているかという問いに対しては、評価規準をB「おおむね満足できる状況」として判断しているケースが全体の3分の2を占めている(図2)。このことから、各学校において評価規準を設定し、評価を実施しようとしていることが分かる。しかし、児童生徒の表現したものを、何をどのように「思考・判断・表現」したかを効果的・効率的に評価し、指導に生かすために評価規準を十分活用できているかということについては、大きな課題となっている。

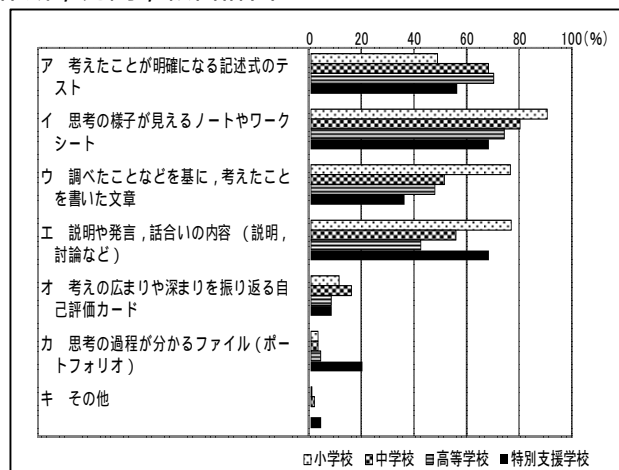


図1 国語科における評価の資料

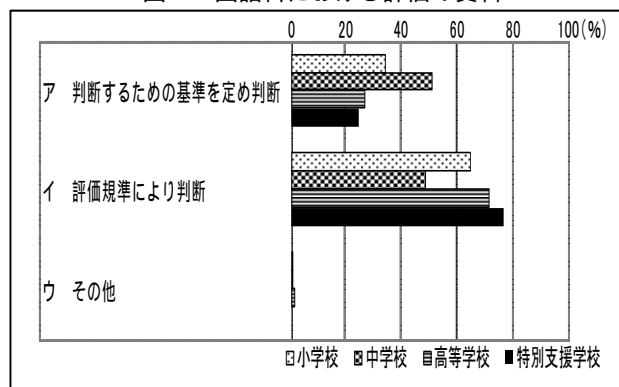


図2 国語科における評価の判断

2 国語科における「思考・判断・表現」の評価

(1) 「思考・判断・表現」の観点

国語科においては、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付ける。

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
小学校	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容を捉えながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。
中学校	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書き、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。
高等学校	関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	話す・聞く能力 目的や場面に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

なお、評価規準については、当該単元で重点的に取り上げる指導事項に基づいて設定する。

(2) 「判断基準」の設定の在り方

国語科の授業は、各領域の能力を確実に身に付けるために、言語活動を通して、指導事項を指導するものである。その際、これらの関係を確実に踏まえた上で、指導に生かす評価が効果的・効率的に実施できるようにすることを考えて、「判断基準」を設定した。

具体的には、次の順序で「判断基準」を設定し、指導と評価を実施していくことになる。

単元の評価規準の作成

↓ 単元の目標に基づき、育成すべき言語能力を明確にして評価の観点を焦点化する。

単元の指導計画の作成

各観点の評価をバランスよく実施することのできる指導計画を作成する。
言語能力の育成に最適な言語活動を、単元を貫いて位置付ける。
課題解決に向けて最も思考力・判断力・表現力を発揮すべき時間を特定する。
評価の時期の焦点化

「判断基準」の設定

評価規準を分析し具体化した、「判断の要素」、判断基準Bを設定する。
判断基準Bを満たす表現例を、児童生徒の実態に応じて想定する。

指導と評価

判断基準Bによる指導と、判断基準Bに照らした評価を実施する。

補充・深化指導

「努力を要する」状況の児童生徒に対する補充指導を判断基準Bの項目や表現例を踏まえて実施する。

「十分満足できる」状況を示す判断基準Aに基づき、B状況にある児童生徒へ深化指導を実施する。

実際に評価する際には、観点や時期を焦点化して設定した評価規準を基にしてワークシートやノートの記述に表れた児童生徒の表現を見取る必要がある。そのため、その表現が学習のねらいを達成しているかどうかを具体的に児童生徒の言葉で想定しておくことで、効果的・効率的に評価し、指導に生かすことができる。

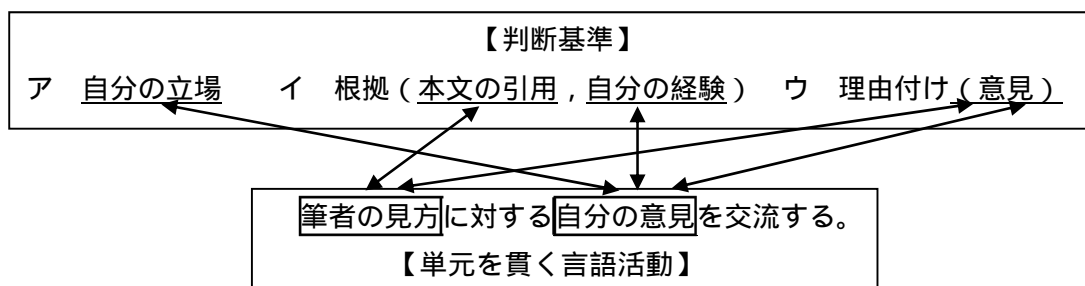
【「判断基準」の設定例(中学校 第2学年 読むこと「日本人はアリスと同類だった」)】

評価規準【読む能力】		単元を貫く言語活動との関連が見えるように留意して具体化する。
読む能力 筆者の見方や考え方に対する自分の意見が、経験等と関連付けて根拠を示しながら明確に表現されている。		
評価時期及び評価の対象		
5時間構成の第4時 ワークシートの記述		何を以ていつ評価するのかを明確にする。
判断の要素		
ア 自分の立場 イ 立場を裏付ける根拠 ウ 立場と根拠をつなぐ理由付け		評価規準を満たしているかどうかを判断する際のポイントを箇条書きする。
尺度	判断基準	
B	筆者の見方に対する自分の立場を明確にしており、それを裏付ける根拠と、根拠を基に立場に説得力をもたせる理由付けが述べられている。 ア 自分の立場を一言で述べている。 イ 立場を裏付ける根拠を示している。(本文の引用, 自分の経験) ウ その立場に立つ理由付けが、自分の意見として述べられている。 【予想される生徒の表現例】 ア 私は、筆者の意見に賛成です。 イ 日本人が昔から、「語り絵」と呼ばれるもの等に触れ、絵を読んで楽しんでいたように、 ウ マンガやアニメは、絵を見ただけで場面の様子や人物の気持ちが理解できるからです。 イ 私自身、マンガやアニメによって励まされたり、心が癒やされたりすることもありました。	
C 状況の生徒への指導	補充指導 アについて...作者の見方や考え方を再度振り返らせる。 イについて...筆者の主張の記述から引用させたり、経験を振り返らせたりする。 ウについて...マンガやアニメとどのように関わってきたかを、筆者の主張を踏まえて考えさせる。	判断の要素の各項目について、「おおむね満足できる」状況として具体化する。
A	根拠を、教材文以外の引用など、他の方法も用いて示している。 理由付けとなる意見の説得力を、反証や仮定などにより高めている。	判断基準を達成した具体的な状況を生徒の言葉で想定する。
B 状況の生徒への指導	深化指導 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を取り入れさせ、自分の考えをより説得力のあるものへと高めさせる。 (学級文庫の活用、ヒントカードの提示など)	判断基準Bを達成できなかった生徒に対する、補充指導を具体化する。
		判断基準Bを基に、より質の高い思考・判断・表現であると判断できる(「十分満足できる」と評価できる)具体的な状況を設定する。

3 「判断基準」に基づく指導と評価

(1) 「判断基準」に基づく指導の考え方

単元を貫く言語活動は、当該単元で扱う言語能力の育成に最適なものでなければならない。そのため、設定に当たっては、言語活動自体のもつ特徴が単元の指導目標達成にどうつながるかを確認する必要がある。そこで、下のように「判断基準」と単元を貫く言語活動とを照らし合わせることにより、その言語活動を通して身に付けさせたい能力を確かに育成することができるかどうか、その妥当性を確認することができる。



(2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

単元を貫く言語活動を通して児童生徒が何をどのように「思考・判断・表現」したかを見る際に、「判断基準」を用いると、効果的・効率的に行うことができる。下の文は、「筆者の見方に対する自分の意見を交流する」ために生徒が書いた意見文である。意見文の構想段階で、「判断基準」の内容を取り入れたワークシートを用いることで、意見文の評価をより確実なものにすることができる。この場合、「判断基準」である三点について全て記述し内容もおおむね満足できる状況であることから、B状況と見取ることができる。このような見取りに基づき、補充・深化指導を行う。

ア 自分の立場を一言で述べている。
イ 立場を裏付ける根拠を示している。(本文の引用, 自分の経験)
ウ その立場に立つ理由付けが、自分の意見として述べられている。

判断基準

「私たち日本人は大人も子どもも、昔からアリスの同類だったらしいのです。」という筆者の見方について考え、自分の意見を書こう。

自分の意見	自分の経験 本文の引用	理由	筆者の見方について
自分でマンガや本を読んで思ったこと。 (陰陽師)	絵を読んで初めてわらうことがわかります。 (F89L17)	自分もアリスの絵も会話をしながら何の役に立つのかと思つて、そんな本はわらうとは思わなかった。	共感できる。

〇メモをもとに意見文を書いてみよう

私は筆者の「私たちは日本人は大人も子どもも、昔からアリスの同類だったらしいのです。」という意見に共感できます。なぜなら私もアリスの「絵も会話もない本なんて、何の役に立つのかしら。」と思つて、そんな本はわらうとは思わなかった。筆者は絵を読んで初めてわらうことがわかります。それを読んで私は「なるほど」と思いました。それは絵がない本ではその場面を想像するしかありませんが、絵があれば、ギリギリその場面やその前後を想像できてわらうことができます。私がアリスの経験から思うように、また絵はなくても会話はあっても会話から想像することもできます。むしろどうもはわらうことができない場面は想像することもできます。だから私は筆者の意見に共感できます。

深化指導の結果

【B状況の生徒に対する深化指導】
学級文庫に、漫画やアニメに関する評論文等を準備しておき、引用させる。
反証や仮定の文例をカードで示し、意見文に挿入させる。

(前略) また、イタリアのアニメーション作家、ブルーノ・ポッツエットは、「あらゆる芸術の中で10秒か20秒で一人の人間の人生を語る... (略)」と言っています。

「～については だという意見もありますが、私は反対です。なぜなら、～」

このように判断基準Bを設定することによって、生徒の実態に応じてその質の高まりを想定することができ、児童生徒の学習意欲を更に高めることができる。と考える。

補充指導については、判断基準Bのどの項目を満たしていないのか、また満たしているが、「おおむね満足できる状況」にない項目はどれかを確認し、それに応じた助言等の指導を行うことによって、B状況と判断できる表現へと高めることができる。

【補充指導】(判断基準Bのイを満たしていない場合)
なぜなら私もアリスの「絵も会話もない本なんて、何の役に立つのかしら。」と思つて、そんな本...
助言 「アリスの言葉よりも筆者の主張をまとめている部分から引用しよう。」
なぜなら「マンガやアニメは、『絵に言葉を添えて語る』という日本の伝統」に基づいたものだから...

【補充指導】(判断基準Bのウを満たしていない場合)
...メジャーという野球マンガを観ていました。とてもおもしろくて夢中になって観ていました。
助言 「筆者の主張を踏まえた理由付けを考えよう。」
...絵が語りかけてくる表現から多くのことを学びました。主人公が夢に向かって努力している姿から勇気ももらい、頑張ろうという気持ちになりました。だから、筆者の考え方に共感できます。

【平成24年度調査研究発表会】
第1分科会（国語科）研究発表

思考力・判断力・表現力を育成する
指導と評価に関する研究

鹿児島県総合教育センター

第1分科会（国語科）研究発表の内容

- 1 国語科における思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態
 - (1) 言語活動の充実の考え方
 - (2) 実態調査の結果と考察
- 2 国語科における「思考・判断・表現」の評価
 - (1) 「思考・判断・表現」の観点
 - (2) 「判断基準」の設定の在り方
- 3 「判断基準」に基づく指導と評価
 - (1) 「判断基準」に基づく指導の考え方
 - (2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導
- 4 国語科の研究成果と課題

2

1 国語科における思考力・判断力・
表現力の育成と評価の実態



3

(1) 言語活動の充実の考え方

言語活動の充実 思考力・判断力・表現力の育成

国語科では

実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなるべき国語の能力を育成する。

指導事項を指導する。

言語活動

(小) 日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など

(中) 社会生活に必要とされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評など

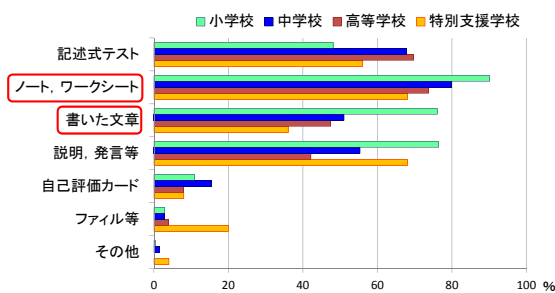
単元を貫く言語活動の具体化

4

(2) 実態調査の結果と考察

国語科における「思考・判断・表現」の評価について

問 どのような情報や資料を基に評価しているか

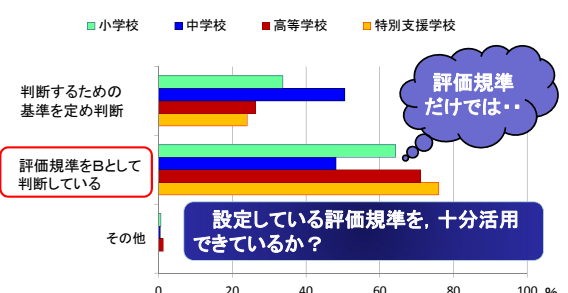


5

(2) 実態調査の結果と考察

国語科における「思考・判断・表現」の評価について

問 どのように評価の判断をしているか



6

2 国語科における「思考・判断・表現」の評価



7

(1) 「思考・判断・表現」の観点

国語科における「思考・判断・表現」の評価の観点

国語への 関心・意欲・ 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能
----------------------	-------------	------	------	-------------------------

基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付け

評価の観点の焦点化

【例】「読むこと」の領域の単元

国語への 関心・意欲・ 態度	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能
----------------------	------	-------------------------

8

(1) 「思考・判断・表現」の観点

中学校第2学年
単元名【「課題をもって読もう～自分のものの見方や考え方と比べながら読む」】
教材名【日本人はアリスと同類だった】

評価規準	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
	① 説明文を読んで内容や表現の仕方について考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。 ② 自分の意見を相互に交流することで自分の表現をよりよいものに高めようとしている。	① 本文を的確に読み、筆者の考え方を理解している。 ② 筆者の見方や考え方に対する自分の意見が、経験等と関連付けて、根拠を示しながら明確に表現されている。	① 文章に用いられている漢字を正しく読んでいる。 ② 重要な役割を果たしている語句に着目し、その語句が表す具体的な中身を考えている。

9

(1) 「思考・判断・表現」の観点

指導計画

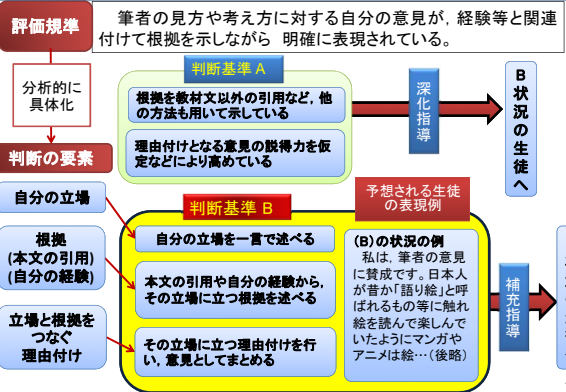
時	主な学習活動	単元を貫く言語活動	指導上の留意点【評価規準】(評価方法)
導入	1 課題設定	筆者の見方に対する自分の意見を交流する	【国語への関心・意欲・態度①】(観察) 【言語についての知識・理解・技能①】(記述の分析)
	2 内容理解		【読む能力①】(行動の観察)
展開	3 内容理解		【読む能力①】(行動の観察)
	4 意見の記述		【読む能力②】(記述の分析) 【言語についての知識・理解・技能②】(記述の分析)
終末	5 意見の交流		【国語への関心・意欲・態度②】

評価の時期の焦点化

単元「思考力・判断力・表現力」が養われる時間「評価」

10

単元名【「課題をもって読もう～自分のものの見方や考え方と比べながら読む」】
教材名【日本人はアリスと同類だった】



11

(2) 「判断基準」の設定の在り方

判断の要素

評価規準を満たす言語表現の要素

評価規準

判断の要素

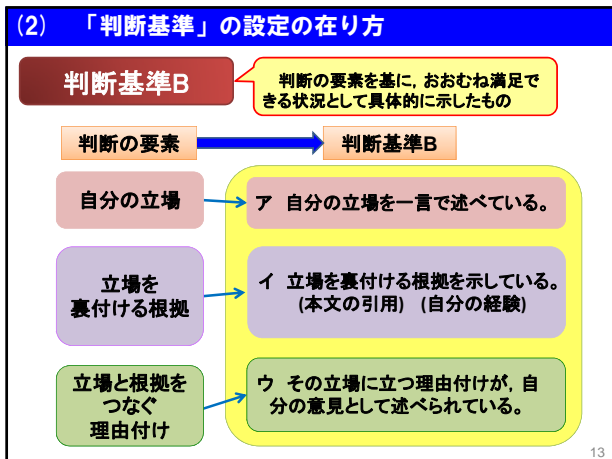
筆者の見方や考え方に対する自分の意見が、経験等と関連付けて根拠を示しながら 明確に表現されている。

自分の立場

立場を裏付ける根拠

立場と根拠をつなぐ理由付け

12



(2) 「判断基準」の設定の在り方

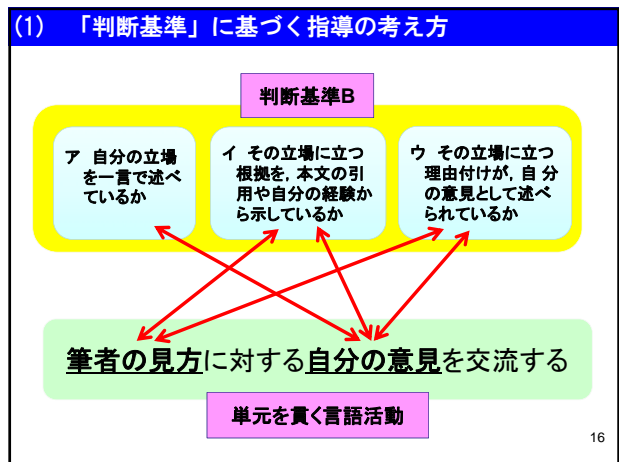
予想される児童・生徒の表現例

判断基準 B

- ア** 自分の立場を一言で述べている。
- イ** 立場を裏付ける根拠を示している。(本文の引用) (自分の経験)
- ウ** その立場に立つ理由付けが、自分の意見として述べられている。

私は、筆者の意見に賛成です。日本人が昔から、「語り絵」と呼ばれるものなどに触れ、絵を楽しんでいたように、マンガやアニメは、「絵を読む」ことで場面の様子や人物の気持ちが理解できるからです。私自身、マンガやアニメによって励まされたり、心が癒やされたりすることもありました。

14



(2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

「思考・判断・表現」の見取りと補充指導

判断基準 B

- ア** 自分の立場を一言で述べているか

教材文の内容を再度理解させる必要がある。

【ワークシートの工夫】本文の要旨を振り返り、自分の立場を明確にしよう！

17

(2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

「思考・判断・表現」の見取りと補充指導

評価規準 筆者の見方や考え方に対する自分の意見が、経験等と関連付けて根拠を示しながら 明確に表現されている。

判断基準 B

- イ** その立場に立つ根拠を、本文の引用や自分の経験から示しているか

でも、アリスが姉さんに言った「絵も会話もない本なんて、何の役に立つのかしら。」というところはわかります。そんな文字だらけの本はおもしろいとは思えないし、第一、読みにくいと思うからです。

【助言】主張をまとめている部分から引用しては？

なぜなら、「マンガやアニメは、絵本とともに『絵に言葉を添えて語る』という日本の伝統」に基づいたものだからです。

18

(2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

「思考・判断・表現」の見取りと補充指導

判断基準 B

ウ その立場に立つ理由付けが、自分の意見として述べられているか

本文の要旨を踏まえた表現になっていない

【助言】
筆者の主張を踏まえた理由付けを考えよう！

僕は、小学校のころに野球をしていて、そのころメジャーという野球マンガやアニメを観ていました。とてもおもしろくて夢中になって観ました。だから、活字だけの本よりもマンガやアニメの方が役に立つというアリスの考え方に共感します。

主人公の表情や投げたボールの勢いを表現した場面から、緊張感やスピード感を味わいました。つまり、絵が語りかけてくる表現から多くのことを学んだのです。主人公が夢に向かって努力している姿から勇気をもらい、頑張ろうという気持ちにもなりました。だから私は、筆者の考え方に共感できます。

19

B状況(おおむね満足)と評価した表現例 **深化指導**

なぜなら、「マンガやアニメは、絵本とともに『絵に言葉を添えて語る』という日本的伝統」に基づいたものだからです。

判断基準 A 根拠を、教材文以外の引用など、他の方法を用いて示している。

A状況(十分満足)と評価した表現例

(上の表現に加えて)また、イタリアのアニメーション作家ブルーノ・ポッツェットは、「あらゆる芸術の中で10秒か20秒で一人の人間の人生を語るものは、アニメーションをおいてほかにないと確信する。」と語っています。

どのような新たな視点を示したのか？

20

B状況(おおむね満足)と評価した表現例 **深化指導**

主人公の表情や投げたボールの勢いを表現した場面から、緊張感やスピード感を味わいました。主人公が夢に向かって努力している姿から勇気をもらい、頑張ろうという気持ちにもなりました。つまり、絵が語りかけてくる表現から多くのことを学んだのです。だから筆者の考えに共感できます。

判断基準 A 理由付けとなる意見の説得力を、反証や仮定などにより高めている。

A状況(十分満足)と評価した表現例

文章だけでも想像力をかき立てるから、筆者の意見には共感できないという人もいますが、私は反対です。なぜなら、絵が語りかけてくる表現から多くのことを学べるからです。主人公の表情や・・・(中略)。だから私は、筆者の考えに共感できます。

新たな視点は？

21

4 国語科の研究成果と課題



22

4 国語科の研究成果と課題

成果

- 国語科における、単元を貫く言語活動を通した思考力・判断力・表現力の育成と、それを見取る評価
- 「判断基準」の設定による、効果的・効率的な実施
- 表現例の想定、「判断基準」の明確化
- 補充指導・深化指導の確立
- 指導と評価の一体化

23

4 国語科の研究成果と課題

課題

より効果的・効率的な評価に向けて

- 各領域における判断基準の設定
- 学習の系統性を重視した判断基準の設定

24

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の工夫 ～第6学年「書くこと」の実践を通して～

出水市立高尾野小学校
教諭 峯元 清年

研究のねらい

平成20年1月に中央教育審議会は学習指導要領等の改善について七項目の答申をおこなった。そのうちの 하나가「思考力・判断力・表現力等の育成」である。その答申を受け、学習指導要領は「思考力・判断力・表現力等を育むために、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させる」ことを大切に改訂がすすめられた。

国語科においても「日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を具体的に例示して」言語活動の充実を図る改訂がすすめられた。国語科の教科書を見ても様々な言語活動が設定されており、発達の段階に応じてあらゆる言語活動が体験できるようになっている。しかし、実際にその授業において「思考力・判断力・表現力」を育成する指導が行われているとは言い難い状況にある。

そこで本研究では、総合教育センターの研究に基づき、第6学年「書くこと」の領域で、自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを作る言語活動と、評価の判断基準の設定、補充・深化指導の工夫を通して、指導と評価の一体化を図ることとした。

研究の内容

1 「思考力・判断力・表現力」の育成に向けて

「思考力・判断力・表現力」について、国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」には、国語科における評価の観点及び趣旨について、次のような説明がある。「国語科においては、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、『話す・聞く能力』『書く能力』『読む能力』を学習指導要領のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と『思考・判断・表現』とを合わせて評価する観点として位置付けた。」つまり、国語科においては、各領域の能力に、「思考力・判断力・表現力」は内在しており、単独に育成するものではないということである。しかし「思考力・判断力・表現力」が何であるかを明確にしなければ、どのように評価し、どのように指導してよいか、具体化できない。そこで本実践においては、「思考力・判断力・表現力」を、「くらべて考える・つなげて考える・自分の考えをもつ」という言葉に置き換えて子どもに提示し、授業に活用することとした。

このような取組を行った理由は二点ある。一つは、子どもは、思考したことから判断し、その結果や過程を表現しており、思考力と判断力と表現力を切り離しては考えられないのではないかと考えたからである。つまり、言語活動を行うまでの過程や言語活動そのものが、「思考力・判断力・表現力」なのではないかということである。

もう一つは、分かりやすい言葉に置き換えることにより、国語の学習でどんな力が身に付くのかを、子どもも理解しやすいと考えたからである。

実際にこれらの言葉が国語科の学習指導要領にどのように表れているかをまとめたのが次の内容である。

= 「話すこと・聞くこと」 = 「書くこと」 = 「読むこと」

	1・2年	3・4年	5・6年
くらべて考える	丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて	互いの考えの共通点や相違点を考え 敬体と常体との違いに注意しながら 一人一人の感じ方について違いがあること	共通語と方言との違いを理解し 自分の意見と比べるなどして 本や文章を比べて読む 複数の本や文章などを選んで比べて読む
つなげて考える	文章の内容と自分の経験とを結びつけて		収集した知識や情報を関係付けること
自分の考えをもつ	自分の考え 自分の思いや考え	自分の考えが明確になるように 文章を読んで考えたこと	自分の意見 自分の考えを明確に 自分の考えが伝わるように 自分の考えをひろげたり深めたり

2 「書くこと」の特性に応じた指導事項の重点化

学習指導要領の「書くこと」の指導事項は、文章ができあがるまでの過程に応じて設定されている。具体的には、「課題設定や取材 構成 記述 推敲 交流」という、書く過程ごとの指導事項を、単元を貫く言語活動を通して指導することが、「書くこと」の特性であり、その過程を子どもが明確に意識し、使えるようになることも、「書くこと」において指導すべき重要な内容であると考えられる。

そこで、「書くこと」の指導においては、単元の指導過程に沿った指導事項の重点化を図ることによって、本時で育成すべき「思考力・判断力・表現力」を明確にする必要がある。その際には、子どもの実態や教材文の内容、単元を貫いて位置付けた言語活動の様式等を、指導事項と関連させることが重要である。例えば、パンフレットは、読み手にとって必要な情報を効果的に示すことができるよう、全体のレイアウト（構成）が重要視される。そのため、パンフレット作りの目的に沿った材料にはどんなものがあるかを考えて収集させたり、どんなレイアウト（構成）にすれば、より読み手の役に立つかを思考、判断、表現させる指導事項（課題設定や取材、構成に関する指導事項）を、当該単元における指導の重点として設定する必要がある。

この考え方に基づき、今回の実践では、次のように指導事項の重点化を図った。

学期	単元名（教材）	言語活動	指導事項の重点
1	町のよさを伝えるパンフレットを作ろう	パンフレット作り	ア・イ
2	自分の考えを明確に伝えよう この絵、わたしはこう見る	意見文 鑑賞文	ア・エ ウ
3	自分を見つめ直して	随筆	ア

3 「書くこと」における，思考力・判断力・表現力の評価方法と評価時期

国語の授業で最も子どもが抵抗を感じやすい「書くこと」においては，ゴールとなるモデルを子どもに示すことで，目標達成についての動機づけを図ることができる。また，評価する際にも，判断基準の尺度Bに基づいて想定した表現例を，実際に子どもに示すことで，子どもの書いたものと照らし合わせながら評価し，指導に生かすことができる。合わせて，教師が意図的に，尺度Bを満たしていないモデルも示すことで，子どもは意欲的に書くべき内容を探ろうとすることができると考え，尺度Bを満たしている作品例と，満たしていない作品例の双方を提示することとした。

また，「思考力・判断力・表現力」に関わる部分の評価時期としては，その単元において重点とした指導事項を指導する場面について「判断基準」を設定し，評価と指導の一体化を図ることとした。ただしこの時期は，課題設定や取材，構成の段階であり，パンフレットは未完成であるため，できあがった作品に対する評価によって補完し，評価の精度を高めるようにした。

研究の実際

1 「自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを作ろう」の実践

- (1) 単元名 自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを作ろう。
- (2) 教材名 ようこそ、わたしたちの町へ（光村図書6年）
- (3) 単元の目標

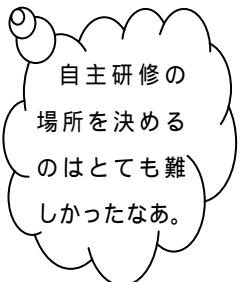
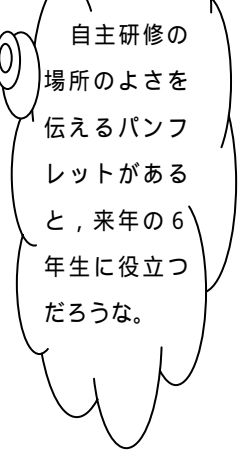
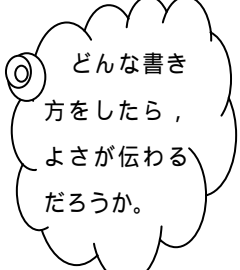
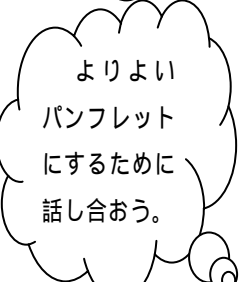
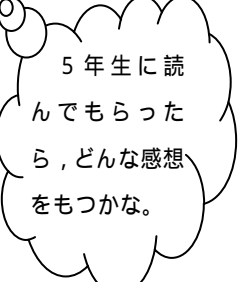
自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを，全体の構成を考えて作ろうとしている。

目的に応じて書く内容を選び，表現の効果などについて確かめたり工夫したりしながらパンフレットを書いている。

(4) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<p>自分たちが行った自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを作ろうとしている。</p>	<p>自主研修の場所のよさを伝えることで，次年度の6年生の学習に役立てるという目的で，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理している。</p> <p><u>自分の伝えたいことを明確に表現するため，文章全体の構成の効果を考えている。</u></p> <p>(本単元の指導事項の重点)</p> <p>事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。</p> <p>他のパンフレットやインターネットの情報から引用したり，図表などを用いたりして，自分の伝えたいことが伝わるように書いている。</p> <p>パンフレットの構成や表現について，推敲してよりよく改善しようとしている。</p> <p>パンフレットを基に紹介し合い，表現の仕方に着目して助言し合っている。</p>	<p>文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。</p>

(5) 指導計画

過程	思いの連続・発展	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとらす		<p>1 教材への興味の喚起，単元のめあての設定</p> <p>「単元のめあてを設定しよう。」</p> <p>「来年の6年生に役立つ，自主研修の場所のよさを伝えるパンフレットを作ろう。」</p>	<p>目的意識をもって，学習に取り組ませるために，何のためにパンフレットはあるのかについて話し合わせる。</p> <p>相手意識をもって，学習に取り組ませるために，自分たちが修学旅行の自主研修の場所を決めるとき，どうだったかを振り返らせ，自主研修の場所の様子がよく伝わるパンフレットがあるといいことに気付かせる。</p>
しらべる		<p>2 学習計画の設定</p> <p>「パンフレットの特徴を調べ，学習計画を立てよう。」</p>	<p>パンフレットの作成手順をしっかりと確認させるために，学習計画を立て，学習計画表を掲示するようにする。</p>
ふかめる		<p>3 学習課題の解決<構想></p> <p>「どんなことを書いたらいいだろうか。」</p> <p>4 学習課題の解決<目次></p> <p>「どんな目次にしたらよいいだろうか。」</p>	<p>取材したものの中から自分たちのパンフレットに入れる内容を取捨選択させるために，あらかじめ取材していた写真やパンフレットは集めさせておく。</p>
ふりかえる・いかす		<p>5・6 学習課題の解決<下書き・構成>（本時）</p> <p>「ページのどこに，どんなことを書いたらよいいだろうか。」</p> <p>「下書きをしよう。」</p> <p>7・8・9 学習課題の解決<推敲・清書></p> <p>「文章を推敲して清書しよう。」</p>	<p>編集会議で積極的に修正案を出し合えるように，下書きなどはワークシートに書かせるようにする。</p> <p>作成するパンフレットは次年度まで保管できるように，画用紙サイズで作らせる。撮ってきた写真などを有効に使えるように，見開きで一つの内容を書かせるようにする。</p>
		<p>10・11 学習活動の評価</p> <p>「自分たちでパンフレットを読み合い，感想を交流しよう。」</p> <p>「完成したパンフレットを5年生に読んでもらい，感想を聞こう。」</p>	<p>5年生との交流ではパンフレットを基に，自主研修の場所のよさを紹介する時間を設定する。</p>

(6) 本時について (5 / 1 1)

ア 目標

読み手を引きつけるためには、大見出し、小見出し、絵や写真などの割り付けが大切であることを理解して、自分たちのパンフレット作りに生かすことができる。

イ 本時の展開にあたって

大見出しや小見出し、絵や写真の割り付けの大切さに気付かせるために、教師提示の尺度 B を満たす割り付け案と、満たしていない割り付け案を提示して、比較して考えさせる。

ウ 本時の「思考・判断・表現」における評価規準及び判断基準

評価規準 (「思考・判断・表現」)	
書く能力 自主研修の場所のよさを伝えるために、全体の構成を考えて割り付け案を考えている。	
評価時期及び評価の対象	
11 時間構成の第 5 時	記述の内容 (ワークシート)
判断の要素	
ア 大見出し イ 小見出し ウ 割り付け	
尺度	判断基準
B	ア 相手が読みたくなる大見出しが作られている。(大見出し) イ 来年の 6 年生に役に立つ内容が書かれている。(小見出し) ウ 作り手の意図が反映された割り付けになっている。(割り付け)
	【予想される児童の表現例】 「モルモットたちがまっている」「動物たちとふれあえる」・・・ア 「ふれあえる動物たち」「ふれあうときの注意点」・・・イ 「一番伝えたい内容を、大きく真ん中にもってきた。」・・・ウ
C 状況 児童への指導	ア・・・どんな言葉だったら読みたくなるか考えさせる。 一番伝えたい内容は何かを考えさせる。 イ・・・自分たちがあって良かったと思う情報は何かを考えさせる。 不必要な情報はないかを考えさせる。 ウ・・・何を一番伝えたいのかについて問いかける。
尺度	判断基準
A	ア その場所のよさが伝わる見出しが作られている。 イ 行った者にしか分からないような内容が書かれている。 ウ 相手を引きつけ、読みやすい割り付けになっている。
B 状況 児童への指導	ア・・・その場所のよさは何かを問いかける。 イ・・・自分たちでしか書けないことをパンフレットに書くといいことを伝える。 ウ・・・相手をひきつけ、読みたくなる割り付け方を考えさせる。

(7) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ・太線内は思考力等に関わる働きかけ
つかむ	1 単元の学習計画から、本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ページの割り付けを考えるときには、どんなことに気を付けたらよいだろうか。 </div>	(分) ↑ 7 ↓	学習に対して主体的に取り組ませるために、学習計画表を基に、単元のめあてを想起させ、本時の学習課題を確認させる。 本時の学習内容に主体的に取り組ませるために、前時までに行っていることと、これからどんなことをやらないといけないかについて発問する。
みとおす	2 学習の進め方を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;"> 全体 個人 編集会議 発表 まとめ </div> 3 書く時にどのようなことに気を付けたらよいかについて話合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">尺度 B を満たすモデル</div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">尺度 B を満たしていないモデル</div> </div>		
しらべる・ふかめる	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; margin: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ その場所のよさが伝わる 大見出し になっているな。 ・ 小見出し の内容から、来年の 6 年生に役に立ちそうな情報が書かれているな。 ・ 一番伝えたいことが何か、分かる 割り付け になっているな。 </div>	↓ 10 ↓	本時の学習内容を、しっかりと身に付けさせるために、「大見出し」「小見出し」「割り付け」という言葉はカード化して提示する。 短時間で自分のページの割り付け案を考えられるように、ページ枠のワークシートを準備する。

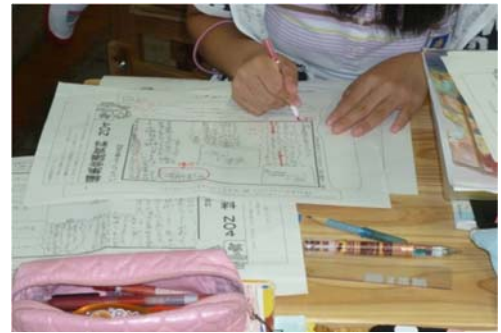
4 ページの割り付けを考える。
個人で案を考える。

編集会議を行い、よりよいページ割り付けについて話し合う。



23

編集会議においては、編集長を中心に、それぞれの割り付け案を出させ、改善案を検討し、どこをどのように改善したか思考の流れが分かるように、改善案は赤ペンで上書きさせるようにする。



< 編集会議 >

編集長（グループリーダー）を中心に、自分が考えたレイアウト図に変更がある場合は、思考の流れが分かるように赤ペンで書かせるようにした。またレイアウトが決定した場合は、なぜそのようなレイアウトにしたのか、大見出しや小見出しをなぜそのようなにしたのか、などの理由を、文章で表現させた。

自分たちが作った案を紹介する。
大見出し「歴史がたっぷり」

その場所のよさが分かる

小見出し
「熊本城でおすすめのおみやげ」

来年の6年生に必要な情報

割り付け
自分たちが一番伝えたいことが伝わるレイアウト

5

5 本時のまとめをする。

大見出し・小見出しを工夫して、読み手を引きつけ、読みたくなる、わかりやすい割り付けにしたらい。

6 次時の学習について話し合う。

編集長に、改善した内容について、ワークシートを基に発表させる。

< 深化指導・Aグループ >

「行った者にしか表せない内容はないですか。」と発問する。

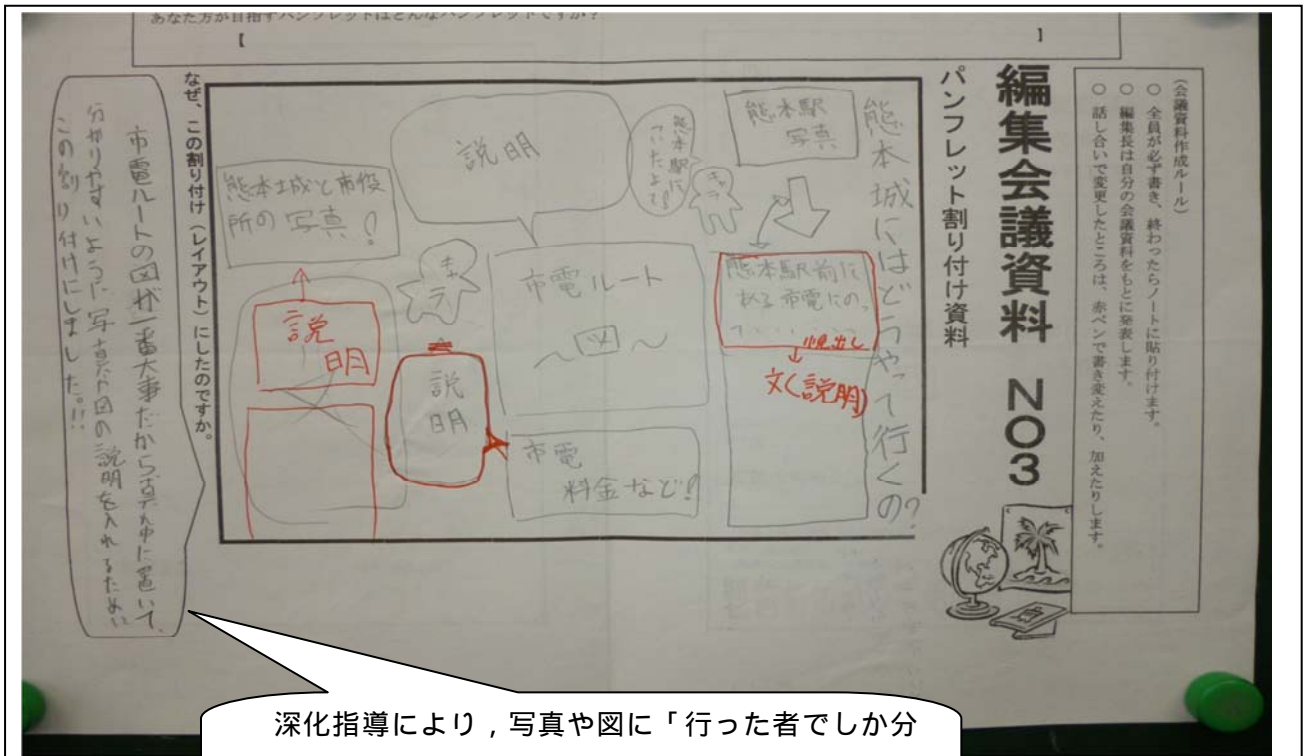
< 補充指導・Bグループ >

「あなたたちが一番伝えた方がよいと考える情報は何ですか。」と発問する。

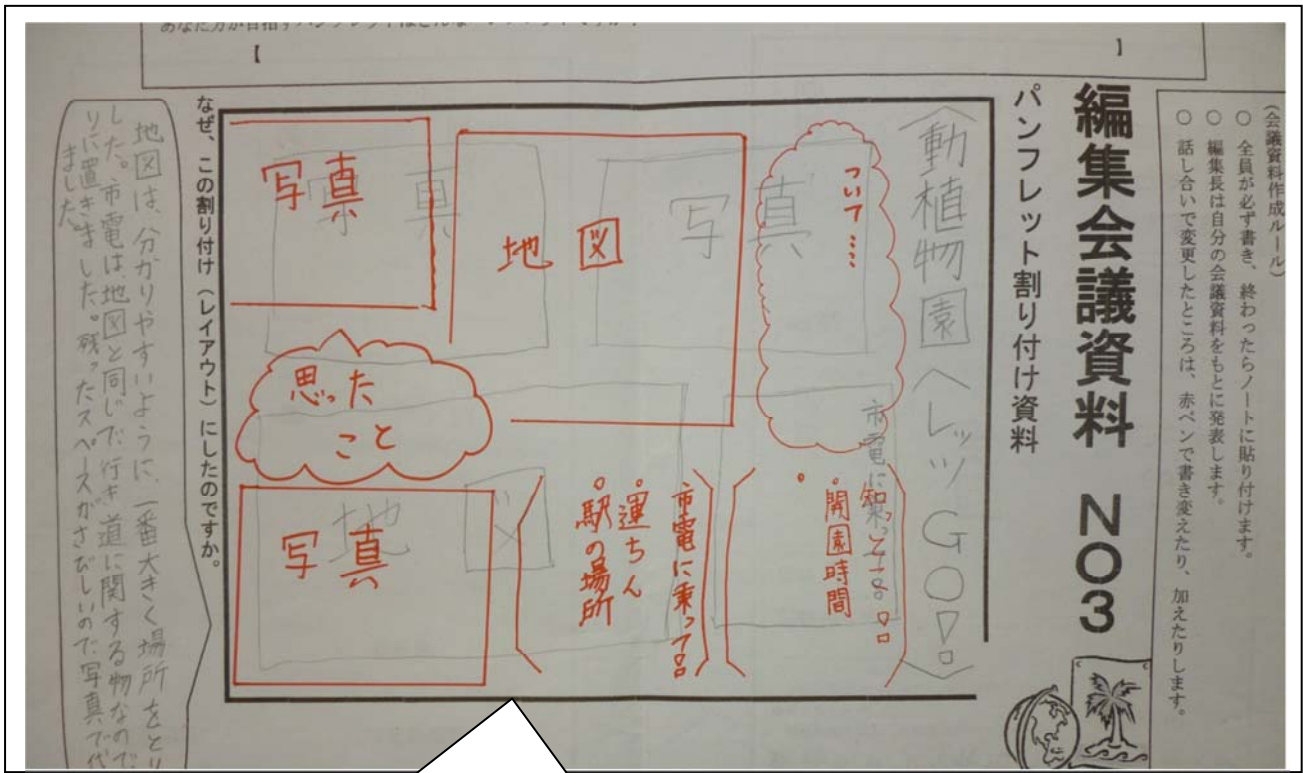
どんな観点で割り付けや見出しなどを考えていたかを明確にさせるために、発言内容から、考えの根拠となる言葉を板書して、意識化させる。

学習のまとめでは、今日の板書を振り返り、ページの割り付けを考えるには、どんなことが大切だったか発問し、ノートにまとめさせ、発表させる。

(8) 編集会議後のワークシート



深化指導により，写真や図に「行った者でしか分からない感想や考え」を説明として書き込むことを決めていた。



補充指導により，自分たちが一番伝えるべき内容は地図であると判断し，地図を中央にもってくるようにした。

研究の成果と課題

1 研究の成果

研究の成果としては、判断基準を設定したことにより、授業における「思考力・判断力・表現力」を発揮している場面を確認し、評価の時期の焦点化を図ることができたということである。その結果、「くらべて考える」活動から「自分の考えをもつ」活動を、観察法で見取ることができた。特に、判断基準Bを満たす表現例をあらかじめ想定して指導したことによって、最終的に出来上がった作品を見ても、指導事項の重点を明確に押さえた作品であるかどうかを評価しやすくなったことが、何よりも成果と言える。

補充指導、深化指導については、判断基準による評価に基づく指導の手立てを明確にしたことで、個々に様々な表現がみられる今回の実践においても、目標の達成に向けて確実な発問・指示を行うことができたと考える。



最低必要な情報は何かを考えて、それらを小見出しにして書いてある。
小見出しがもっと工夫して書いてあるととてもよい。

大見出しがとても工夫されている。必要な情報や、行った自分たちにしか分からない内容も書けている。



2 研究の課題

判断基準Bのウ「作り手の意図が反映された割り付けになっている。(割り付け)」については、その割り付けにした理由をワークシートに書かせて評価したが、必要となる分量や内容について、さらに検討を加える必要がある。子どもには、各グループの編集会議において、そのワークシートを見ながら説明させたが、書く活動と話す活動双方の時間確保に個人差が生じた。言語活動に関する子どもの実態に応じた、補充指導の充実を図りたい。

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の工夫 ～第1学年「書くこと」の実践を通して～

阿久根市立大川中学校
教諭 坂口 悠子

I 研究のねらい

中学校学習指導要領総則では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成のバランスをよく図ることが重視されている。また、平成20年1月の中央審議会答申では、思考力・判断力・表現力等の育成のために、知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階にに応じて充実させるとともに、これらの学習指導の基盤となる言語能力を、国語科を中心に全ての教科で高める必要性が指摘されている。

本研究は、「書くこと」の領域で「思考・判断・表現」の指導と評価の一体化について実践を行ったものである。

本校の生徒は、小学校時の「書くこと」の学習で、感想文や意見文等を書く学習を行っている。「書くこと」の学習に対して関心が高く、意欲的に取り組むことができている。NRT（全国標準診断的学力検査）の結果を見ても、通過率が高く、「書くこと」の力が定着していることが分かる。

そこで本研究では、このような実態や学習経験を生かして、「書くこと」における「思考・判断・表現」の指導と評価の一体化を図ることとし、そのために、「鑑賞文を書く」という単元を貫く言語活動について、判断基準を設定した授業を実践した。

II 研究の実際（授業実践）

1 単元名 根拠を明らかにして自分の思いを伝えよう

2 教材名 「鑑賞文を書こう」
～郷土出身の画家の思いに触れる～



3 単元について

(1) 単元の位置とねらい

ア 内容的意義

この単元では、郷土出身の画家の作品の中から好きな作品の一つを選び、鑑賞文を書く活動を行う。学習指導要領解説では、鑑賞文を書く対象を「芸術的な作品」として「絵画や音楽、彫刻や建築物などを含め、幅広く考えることができる」としている。自分が好きな作品を対象とすることで文章を書く意欲が高められることが考えられる。また、郷土出身の画家の作品を扱うことで、郷土愛を育むとともに、国際化社会に生きる生徒たちが郷土について自信をもって伝えることができる態度を育成したい。

イ 言語能力的意義

「書くこと」の単元として、学習過程の各段階のねらいに即して、構成を工夫することと、的確に記述すること、書いた鑑賞文を推敲することを通して、「書くこと」の力を育みたい。また、書いた鑑賞文について、観点を示して互いに読み合う交流を行うことで、自分の表現を更に高めるとともに、自分の考えや気持ちを明確にして書くことの大切さを意識させたい。

ウ 連関的意義

この単元は、「書くこと」の単元である。本単元の前に、同じ「書くこと」の単元である「一枚レポートを書こう」という学習を行った。「一枚レポートを書こう」の学習では、集めた材料を分類・整理して、文章の構成を考える学習や、調べたことについて、根拠を明確にした文章を書く学習を行った。この学習で習得した「書くこと」の力を「鑑賞文を書こう」の学習で更に育成したい。

また、本単元の学習は、美術科や音楽科の「鑑賞」につながるものでもある。他教科での言語活動にも生きるような言語能力を、国語科として身に付けさせたい。

(2) 指導の基本的な立場

郷土出身の画家の作品の中から、自分が好きな作品の一つを選び、その作品の鑑賞文を書く活動を行う。「鑑賞する力」を高めるためには、「自分の考えを形成する」という理解の能力とともに、対象を様々な角度から捉えて、そのよさを見分けたり味わったりして書くための知識・技能が必要である。鑑賞文を書く際には、自分が抱いた思いとその理由を挙げて書くとともに、作者や作品ができた時代背景等にも着目させたい。さらに、書いた鑑賞文を互いに読み合い、交流を行うことで、自分の表現をよりよいものに高めたり、自分の見方や考え方を深めたりしていきたい。

4 単元目標

- (1) 書いた文章を互いに読み合い，交流することで，自分の表現をよりよいものに高めようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 学習過程の各段階のねらいに即して鑑賞文を書くことができる。(書く能力)
- (3) 作品のよさを書き表すために，表現技法を適切に用いている。(言語についての知識・理解・技能)

5 本単元における言語活動

【中学校第1学年「書くこと」】

郷土出身の画家の作品の中から好きな作品の一つを選び，鑑賞文を書く。
(関連：言語活動例ア)

6 評価規準

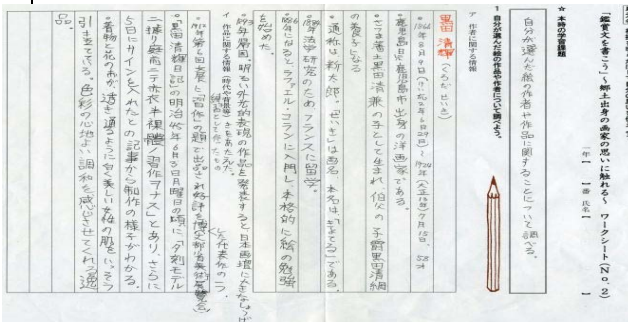
国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<p>関心のある芸術作品について，自分の印象や感動を分かりやすく文章に書こうとしている。</p> <p>書いた鑑賞文を互いに読み合い，交流することで，自分の表現をよりよいものに高めようとしている。</p>	<p>郷土出身の画家の作品の中から対象を決め，様々な角度からそのよさについて考えている。</p> <p>作品のよさを要素ごとに整理し，段落の役割を踏まえて鑑賞文を構成している。</p> <p>作品のよさについて，表現の仕方，作り手の思いや見方，受けた印象や感動などが読み手に伝わるかどうかを確かめて読みやすく分かりやすい鑑賞文にしている。</p> <p>書いた文章を互いに読み合い，相互評価を行うことで，自分の表現をよりよいものに高めるとともに，自分の見方や考え方を深めて鑑賞文を書いている。</p>	<p>作品のよさを表す語句や表現を工夫し，文脈に応じて使い分けている。</p> <p>作品のよさを書き表すために，比喻や反復などの表現の技法を，必要に応じて適切に用いている。</p>

7 単元の指導計画及び評価計画





時	主な学習活動	指導上の留意点 【評価規準(評価方法)】
1	1 鑑賞文について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に記載されている鑑賞文の例を読み，鑑賞文について説明する。 【関心・意欲・態度 (観察)】 ・ 好きな理由を，根拠を明らかにして考えさせる。 【書く能力 (ワークシート)】
	2 単元の学習課題を設定する。 郷土出身の画家の作品の鑑賞文を作成する。	
2	3 郷土出身の画家の作品から自分が好きな作品の一つを選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室の本やインターネット，美術資料集等を活用する。 【関心・意欲・態度 (ワークシート)】
	4 自分の好きな作品を選んだ根拠を書く。 5 作者や作品ができた時代や背景等について取材をする。	



パソコン室や図書室で調べ学習をする



調べた内容をワークシートにまとめる

3	<p>6 鑑賞文の構成を考える。 7 鑑賞文 を400字で作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四段落で構成させる。 ・ 取材したことの中から取捨選択し、書く内容を決めさせる。 <p>【書く能力 (ワークシート)】 【言語についての知識・理解・技能 (ワークシート)】</p>
<p>☆ 交流カード(評価の観点)</p> <p>【内容・表現】</p> <p>() 作品を見ていない人にも作品のイメージが伝わるように工夫して書けているか。</p> <p>() 自分が絵を見て感じたことや、その理由が明確に書かれているか。</p> <p>() 画家について調べたことや、作品ができた背景がよく書かれているか。</p> <p>() 作品のよさを書き表すために、表現技法等を適切に用いているか。</p> <p>【構成・表記】</p> <p>() 題名に工夫が見られるか。</p> <p>() 四段落構成で書かれているか。</p> <p>() 習った漢字を適切に書いているか。</p> <p>() 常体で統一されて書いているか。</p> <p>() 文字を丁寧に書いているか。</p>		
<p>「評価の観点」を踏まえて鑑賞文を作成する</p>		
4	<p>8 交流会 で、鑑賞文 を互いに読み合い、相互評価を行う。</p>  <p>グループで鑑賞文を発表する</p> <p>9 交流を生かした鑑賞文 を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んで、情報の選び方や文章の構成、文体等の良い点や改善点(アドバイス)を交流カードに書かせる。 <p>【関心・意欲・態度 (観察)】 【書く能力 (作品)】</p>  <p>グループで相互評価をする</p>
5	<p>10 交流会 で、鑑賞文 を互いに読み合い、相互評価を行う。</p>  <p>全体で鑑賞文を発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んで、情報の選び方や文章の構成、文体等の良い点や改善点(アドバイス)を交流カードに書かせる。 <p>【関心・意欲・態度 (観察)】 【書く能力 (作品)】</p>  <p>全員で相互評価をする</p>
6	<p>11 交流を生かした鑑賞文 (清書) を作成する。</p> <p>12 単元を振り返って自己評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流したことを生かして、自分の文章のどこを改善すればいいか考えさせる。 <p>【書く能力 (作品)】 【言語についての知識・理解・技能 (ワークシート)】</p>

8 本時の実際(5/6)



(1) 目標

- 作成した鑑賞文を互いに読み合い，交流を行うことで，自分の表現の改善点をまとめることができる。

(2) 「思考・判断・表現」を育成する授業設計の視点

- 交流を生かして鑑賞文に書くべきことを意識する。
- 交流を通して，互いに考えを伝え合うことにより，表現をよりよいものに高めた鑑賞文を作成することを意識する。

(3) 展開

時	学習活動	指導上の留意点
導入	1 学習目標を知り，学習の見通しをもつ。 ・ 学習の流れを確認する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 作成した鑑賞文を互いに読み合い，交流をし，自分の表現をよりよいものに高めるための改善点をまとめる。 </div>	学習計画表を使い，本時の学習内容を確認する。 小黒板を使って，本時の学習課題を提示する。 1回目の交流会を想起させ，交流の方法について再確認する。
展開	3 作成した鑑賞文を学級全体で交流する。 (1) 作成した鑑賞文 を発表する。  (2) 発表を聞く生徒は，交流カード（*）に評価を記入する。 (3) 発表が終わったら，交流カードを渡して，特によかった点や改善点について話し合う。 4 交流カードを参考にして，自分の鑑賞文の改善点を考える。 ・ 書くべき内容を整理する。 ・ 交流を通して，集めた情報の中から，何を取り上げ，どのように書くかを考え，判断する。 5 改善点を発表する。 	評価の観点を「内容・表現」「構成・表記」面に分けて提示する。 観点の他に，「特によかったところ」「清書に向けての改善点」も記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p style="font-size: small;">この文章では，次の表現がよいと思います。</p> <p>自分の比喩しているところが聞かれている方はとても分かりやすい。</p> <p>「森の中」で終わっているところが良かった。</p> <p>清書に向けて，次の表現・表記などを直したほうがよいと思います。</p> <p>「聞こえる」を「聞こえこいそうである」のように変えた方がいいと思う。</p> </div> <p style="text-align: center;">相互評価より</p> 交流したことを生かして，自分の鑑賞文のどこを改善すればいいか，交流カードを参考に考えさせる。 次時の清書に向けて，どのような点を改善するか，具体的に発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">鑑賞文に向けての改善点</p> <p>「細密」というのを「細く」にする。</p> <p>疑問があとというのを捨てる。</p> <p>「聞こえる」と「聞こえていっている」にする。</p> <p>「作風特有」を「文章で表す」</p> <p>ふりがなをつける</p> <p style="text-align: right;">清書に向けての改善点</p> </div>
終末	6 本時のまとめをする。 7 次時の学習内容を確認する。	本時の学習内容を振り返り，自己評価をさせる。 次時の学習を確認し，学習への意欲をもたせる。

(4) 「思考・判断・表現」の評価

ア 評価する内容と方法の概要

評価する内容は、交流したことを生かして、構成や表現の仕方を工夫した鑑賞文を書いているかということである。

評価する方法は、生徒作品の分析である。交流を生かした鑑賞文を書いているか、自分の表現をよりよいものに高めているか、自分の見方や考え方を深めているか等を判断基準に照らして見取ることとする。

イ 判断基準

評価規準（「思考・判断・表現」）	
<p>書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を互いに読み合い、相互評価を行うことで、自分の表現をよりよいものに高めるとともに、自分の見方や考え方を深めて鑑賞文を書いている。 	
評価時期及び評価の対象	
6 時間構成の第 5 時と第 6 時	生徒が選択した作品について作成した鑑賞文
判断の要素	
ア 書く材料（作品の分析）	イ 構成
ウ 表現技法等の工夫	エ 見方や考え方の深まり
尺度	判断基準
	<p>ア 作品を見ていない人にも、作品のイメージが伝わるように表現を工夫して書いている。</p> <p>イ 作品の全体像・絵を見て自分が感じたこととその理由・作者や作品ができた時代背景について・強く感じたことや想像できることの四段落構成で書いている。</p> <p>ウ 作品について自分が感じたよさが読み手に伝わるように、表現技法等を使って工夫して書いている。</p> <p>エ 交流したことを生かして、鑑賞文よりも表現に深まった鑑賞文を書いている。</p> <p>B</p> <p>【予想される生徒の表現例】 全体的に淡い色で統一されているが、桜島からもくもくと煙が立ち上っている姿が見てとれる。煙は、空高くまで立ち上っており、大爆発が起こったように見える。 この絵を見て、桜島の力強さを感じる事ができた。なぜなら、画面いっぱいに桜島が描かれている構図であり、雄大な桜島の様子が伝わってくるからだ。 この作品の作者は、黒田清輝である。大正3年に、桜島は大爆発を起こし、錦江湾に浮かんでいた島は、大量の溶岩で大隅半島と陸続きになる。このとき、たまたま鹿児島に帰ってきていた清輝は、この大爆発を目の当たりにする。刻々と変化する桜島の様子を六枚の板に描いたものと言われる。 清輝は、桜島の大爆発が目の前に迫り、切羽詰まった様子で筆をとったのではないだろうかと考えた。自然の驚異を感じさせ、見る人にも迫力を感じさせる作品である。</p>
C 状況生徒への指導	<p>アについて... 作品のイメージが伝わる適切な語句や表現を想起させる。</p> <p>イについて... 鑑賞文を書く際の決まりごとを振り返らせながら、補充指導を行う。</p> <p>ウについて... 今まで学習した表現技法等を振り返らせながら、補充指導を行う。</p> <p>エについて... 1・2 回目の交流会を振り返らせ、改善すべきことを整理しながら、補充指導を行う。</p>
尺度	判断基準
A	<ul style="list-style-type: none"> 作品の全体像・絵を見て自分が感じたこととその理由・作者や作品ができた時代背景について・強く感じたことや想像できることの四点が関連付けられて記述されているなど、(B)以上と認められる状況にある場合
B 状況生徒への指導	判断基準 A の状況にある生徒の作品について交流させたり、判断基準 A の内容に関する問いかけを行ったりしながら深化指導を行う。

ウ 判断基準による指導

本時では、2回目の交流会を実施した。交流会では、書いた文章を互いに読み合い、内容や表現について相互評価を行った。
 交流の際に、「作品のイメージが伝わるような表現の工夫」「指定した四段落構成」「表現技法等の工夫」「交流を通して改善された表現」の四点の「判断基準」で思考・判断・表現の見取りを行った。また、これらの「判断基準」を評価の観点とし生徒の記述と観点が1枚になったワークシートを作成した。このワークシートを使用し、相互評価をさせることで、具体的な指導に役立てた。

★鑑賞文②を作成する
 一年()番氏名()

題名「悲しそうな女性」

赤い花がさいている木があり、画面中央を向いた女性が立っている。着物と花の透き通るように白く美しい女性の肌を、そう引き立てている。

後ろの花や木をあわい色で描いて、女性を目立つようにした構図。だから、女性の表情も分かりやすい。口を閉じて、視線は少し下を向いていて、少し悲しそうな表情。子供な心で大切なものを見守っている様子が出て、心がうばわれた。

この絵を描いたのは、黒田清輝という方が描いた。一八六六年八月九日に鹿児島市で生まれた。一八九二年にフランスから帰国し、外の太陽の光を表現した作品を発表すると、日本に大きなうねりをあたらえた。

この絵も、明るい色を使ったり、あわいところもあり太陽の光を表現している。それに明るい色を使って描いたものは、さ、こ、悲しげな女性が見える。こぼれたいという思いが、描いたのではないかと考える。

判断基準Bの工

判断基準Bのウ

判断基準Bのイ

判断基準BのA

★交流カード(評価の観念)

○ 作品のイメージが伝わるように書いているか

○ 自分が絵を見て感じたことや、その理由が明確に書かれているか

○ 画家について調べたことや、作品ができた背景がよく書かれているか

○ 題名に工夫が見られるか。(成・表記)

○ 四段落構成で書いているか

○ 表現技法を用いているか

○ 文字を丁寧に書いているか

○ 常体で統一されて書いているか

○ この文章では、次の表現がいいと思いたいところを、次の表現がいいと思いたるところを、かいてほしい。(ベクトル線)

○ 赤も赤色にした方がいいと思いませんか。

○ 清書に向けて、次の表現・表記などを直したほうがいいと思います。

エ 「判断基準」による見取りと補充・深化指導

生徒自身の記述と「判断基準」による評価(相互評価の観点)が1枚になったワークシートを工夫したことで、自分の文章の良いところや改善点が明確になり、補充指導や深化指導へつなげやすくなった。特に、判断基準Bの工による改善点の指摘は、次時の「清書する」という活動に直結する補充指導又は、深化指導を教師に代わって生徒が果たすことになった。
 下記は、当初より判断基準Bを満たしていた生徒作品の一部である。2度の交流会による相互評価を参考にしながら、教師がA状況にある生徒の作品紹介や判断基準Aの内容に関する問い掛けを行いながら、より質の高い表現に仕上げていった過程がうかがえる。

交流会 1

交流会 2

清書

探元は、三十一歳から富士山を描き続けた。ここまで富士山を思う気持ちがあるのだ。この絵は、富士山の迫力、静かさなど、本物の富士山のことをいろいろの人に知ってもらいたいと思いついたのかもしれない。

このように探元は、三十一歳から富士山に心を奪われた四十一年以上描き続けた。こり絵は完全に出る上が富士山を知らない多くの人が迫力、堂々さ、静かさなどを知ってもらいたかったのだと思う。

探元は、四十四年以上富士山を描き続けた。そしてこの絵は富士山を知らない堂々とした姿、静けさなどの富士山の魅力を伝えたのである。

オ 単元の振り返りの時間の設定

(7) 自己評価

第6時に単元を振り返り，自己評価を行った。(A...よくできた B...できた C...できなかった)

	評価項目	A	B	C
	自分が選んだ画家についての調べ学習に，意欲的に取り組むことができましたか。	4	3	0
	積極的に交流会に参加することができましたか。	5	2	0
	交流を通して，友達の作品の良いところやアドバイスを見付けることができましたか。	3	4	0
	書いた文章を互いに読み合い，交流を通して，自分の表現の改善点を見付けることができましたか。	4	3	0
	交流会を通して見付けた改善点を意識して，自分の表現をよりよいものに高めることができましたか。	4	3	0

(1) 交流会の振り返り

今回の実践では2回の交流会を実施した。交流会を通して，学んだことや役に立ったことを振り返り，ワークシートにまとめた。(生徒のワークシートより)

- ・ 交流会を通して，自分では気づかない改善点を友達から教えてもらえるので，1回目よりだんだんいい鑑賞文を書くことができた。
- ・ 改善点をまとめて，よりよい作品に仕上げることができた。
- ・ 美術の時間に，スケッチ大会の絵を友達と見せ合ったときに，絵の様子をうまく表現して友達に伝えることができた。国語での交流会を生かすことができてよかった。
- ・ 最初は作品について，自分が思ったことだけをありのままに書いた鑑賞文だったけれど，更に新しい発見が生まれ，作品に対してさらに興味がわいてきた。交流会を2回行うことで，前よりもレベルアップした鑑賞文を書くことができた。市立美術館に行くと，本物の絵を見てみたい。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

郷土出身の画家の作品を，様々な角度から捉え，表現が工夫された鑑賞文を完成させることができた。

どの生徒も，交流会に積極的に取り組む姿が見られた。交流会を2回行ったことで，自分の考えが深められ，よりよい表現に改善することができた。

「判断基準」を設定することにより，補充・深化指導の手立てが講じやすくなった。

美術の先生との連携を図り，授業の進め方や鑑賞の仕方等の情報交換を行った。実際に授業に参加してもらい，授業改善のアドバイスをもらうことができた。本実践後の美術の鑑賞の授業では，以前よりも鑑賞に対する意欲が高まり，鑑賞する際に，多様な表現を使用するようになった。

2 今後の課題

交流の際に使用するワークシートを更に工夫していきたい。

「判断基準」の設定について，実践，検証を重ねて，指導改善に生かしたい。

他教科の言語活動に生かせる手立てを考えながら，授業を組み立てる必要がある。

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の工夫
- 第2学年「読むこと」(現代文)の実践を通して -

県立末吉高等学校
教諭 植田 由紀子

I 研究のねらい

知識基盤社会化が進む現在の社会で必要とされる生きる力を育むために、学習指導要領の改訂の重点として言語活動の充実が示されている。国語科は全ての言語活動の基盤となる教科であり、高等学校国語科の授業においても言語活動の充実を図ることは喫緊の課題である。

国語科の授業における本校生徒の実態として、文章を読んで自分の考えをもったり、自分の考えを分かりやすく表現したりすることを苦手とする傾向が見られる。本校の生徒の約半数は就職を希望し、高校卒業と同時に社会に出て行く。社会人として自立する力を養うという観点からも、知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力の育成を目指した言語活動の工夫が必要である。

本研究は、県総合教育センターの研究に基づき、現代文「読むこと」の領域で、思考力・判断力・表現力の育成を図った言語活動と、その評価に関する授業実践である。比べ読みを通して批評文を書く言語活動と、評価の判断基準の設定、補充・深化指導の工夫を通して、指導と評価の一体化を図った。

II 研究の実際(平成24年7月実施 対象:末吉高等学校普通科2年生 39人)

1 単元名

現代の詩

2 教材名

「発車」 吉原 幸子

「僕はまるでちがって」 黒田 三郎

「飛込」 村野 四郎

「関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりする」 (『新現代文 改訂版』大修館書店)

3 単元について

(1) 単元の位置とねらい

ア 内容的意義

本単元は、同じ作者やテーマの詩を読み比べて評価する活動を通して、詩の特徴を捉え作品の読みを深めることをねらいとしている。

イ 言語能力的意義

「読むこと」の単元として、詩に描かれている情景や人物の心情について客観的・分析的に読み取らせる。さらに、同じ作者やテーマの詩を読み比べることを通して、詩の特徴を捉え、人生や生き方などについてまで考えを広げさせることが大切である。

ウ 連関的意義

この単元は、「読むこと」の単元である。1年次では、詩の内容について読み取り感想をまとめる活動を行ったが、それは生徒の主観的なものとどまっていた。今回の授業では、生徒の実態に応じつつ、生徒自身が客観的な視点を持ち、作品の内容や特徴について考えを深める力を身に付けさせることとする。

(2) 指導の基本的な立場

教科書の3編の詩を学習した後、比べ読みを通して、教科書の詩の内容や特徴を考えて批評文としてまとめさせる。その際、生徒の反応を予想した判断基準を設けることで、効果的な指導ができるのではないかと考える。

4 単元の目標

- (1) 他者との交流を通して、ものの見方、考え方を広げようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 詩の表現から、作者の意図を捉える。(読む能力)
- (3) 詩を読み比べることを通して、詩を味わい、自分なりに評価する。(読む能力)
- (4) 詩の言葉の働きを理解する。(知識・理解)

5 本単元における言語活動

文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。(現代文B ウ)

6 単元の指導計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
他者との交流を通して、ものの見方、考え方を広げようとする。	詩の表現から、作者の意図を捉えている。比べ読みをすることを通して、詩を味わい、自分なりに評価している。	詩の言葉の働きを理解する。

(2) 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習課題について確認する。 ・ 詩を比べ読みすることを通して、作品の魅力について考えを深めよう。 ・ 「発車」を音読する。 ・ 「発車」の内容を読み取る。 ・ 「僕はまるでちがって」を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書し、説明する。 ・ ワークシート を用いる。 ・ 初発の感想を書かせる。 ・ 初発の感想を書かせる。 	読む能力 (ワークシート) 知識・理解
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「僕はまるでちがって」の内容を読み取る。 ・ 「飛込」の内容を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート を用いる。 ・ ワークシート を用いる。 	読む能力 (ワークシート) 知識・理解
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みをする流れを確認する。 ・ 評価のポイントを確認する。 ・ 比べ読みをする詩を読み、共通する点と異なる点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート の例を配布し、批評文の書き方を説明する。 ・ 比べ読みをする作品を一つ選ばせる。 ・ 書くことが困難な生徒には、ヒントシートを配布する。 	読む能力 (ワークシート)
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みを通して、批評文を書く。 ・ グループで交流し、ものの見方、考え方を広げる。 ・ 授業全体を通して読みが深化したかを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んで、自分の意見をまとめさせる。 ・ 付箋を用いて他者の考えや意見を評価させる。 	読む能力 (ワークシート)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ A状況の生徒の作品を見て、自分の書いた批評文と比べ、参考にする。 ・ 自分の書いた批評文を見直し、推敲してよりよいものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A状況の生徒の作品を数点コピーし、配布する。 ・ 前時に回収した作品に評価とコメントを付けたものを返却し、推敲させる。 	読む能力 (ワークシート) 関心・意欲・態度

7 本時の展開 (4 / 5 時間)

過程	時間	学習活動及び内容	「思考・判断・表現」の評価
導入	5分	1 前時の内容を振り返る。 2 本時の学習目標を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習目標 詩を比べることを通して、 教科書の詩の魅力や特徴を 明らかにしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習プリント (内容理解のためのワークシート) で、教科書の詩と比べ読みをする詩の内容を確認する。 【記述の確認】 (判断基準 B のア)
展	20分	3 二つの詩を比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 比較用ワークシート項目 二つの詩の共通する点 二つの詩の異なる点 (表現方法・印象など) </div> 4 批評文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを用いて、比べて分かったことをまとめる。 【記述の確認】 (判断基準 B のイ・ウ) 机間指導をし、書き出せない生徒には、書き出しや内容について助言する。
		<div style="text-align: center;">  </div>	
開	15分	5 グループで作品を見せ合い、ものの見方・考え方を広げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 相互評価のポイント 自分の意見と () が [同じだった / 違った] 書いてある意見は () が [分かりやすかった / 分かりにくかった] 文章を読んで、新たな発見が [あった / なかった] </div>	<ul style="list-style-type: none"> 同じ作品で批評文を書いたもの同士でグループを作る。 時間の範囲内で互いに読み合い、よい点、自分の意見と同じ点、異なる点等を付箋紙に書いて、批評文の横に貼る。 【行動の観察】 相互評価を通して自分の批評文を推敲する。 【記述の分析】 (判断規準 B のア・イ・ウ)
まとめ	10分	6 まとめの文章を書く。 7 次時の学習では、指導者から示される、他の生徒の批評文を参考にして、自分の批評文を完成させること (補充・深化指導を行うこと) を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本文について、内容を理解するだけでなく自分自身で考え、深めることができたという実感があるか考えさせる。初発の感想を用いて比較する。 学習を通じた感想を書く。
		<div style="text-align: center;">  </div>	

8 判断基準

評価規準（「思考・判断・表現」）	
○ 読む能力 比べ読みをすることを通して，詩を読み味わい，根拠を示して評価している。	
評価時期及び評価の対象	
○ 5時間構成の第4時における終末時（読む能力） ○ 生徒が選択した詩についての批評文	
判断の要素	
ア 詩の内容	イ 比べるポイント
ウ 根拠に基づいた，詩に対する自分の評価	
尺度	判断基準
B	ア 教科書の詩と比べ読みする詩の内容を把握している。 イ 教科書の詩と比べ読みする詩の共通する点と異なる点を挙げている。 ウ 教科書の詩に対する自分の考えを，根拠を示して述べている。
	【予想される生徒の表現例】 教科書の「飛込」と，比べ読みをした「飛込」は，作者と詩のタイトル，水に飛び込むというテーマを扱っている点が共通している。しかし，教科書の「飛込」は「僕」が実際に飛び込んでいるのに対して，比べ読みの方の「飛込」は，「あなた」が飛び込む姿を眺める視点で描かれている。また，教科書の「飛込」で飛び込んでいる姿には力強いイメージを感じるが，比べ読みの方の「飛込」では「衣装」「蜂」という言葉から美しくしなやかなイメージが強い。 二つの作品を比べると，教科書の「飛込」の方がよりダイナミックで躍動感があると言える。
C 状況生徒への指導	判断基準Bを基に，これまで学習で使用したワークシートやヒントシートを用いて補充指導を行う。
尺度	判断基準
A	（判断基準Bに加えて） ・ 詩について多角的に評価している。 ・ 人生や生き方などについて自分自身の考えを述べている。 ・ その他，詩を深く読んでおり，B状況以上と認められるもの。
B 状況生徒への指導	判断基準Aの状況にある生徒の作品を紹介したり，判断基準Aの内容に関する問い掛けを行ったりしながら深化指導を行う。

9 授業の実際

(1) 詩の内容を理解する手立ての工夫（1・2時間目）

限られた時間の中で3編の詩の内容を読み取らせるための手立てとして，ワークシートを用いた（図1）。本文を音読させ，初発の感想を書かせた後，ワークシートの設問について生徒に考えさせた。そして数名の生徒を指名し，自分の考えを発表させて読み深めていくという流れで内容理解を図った。

(2) 比べ読みをするための工夫（3時間目）

比べ読みのためのワークシートを配布し，比べ読みの流れと例を示して（図2・3），比べ読みをすることで，作品の特徴が明らかになり，作品について客観的に考えることができると説明した。例として，1年次で学習した与謝野晶子と俵万智の短歌を用いた。さらに，図3の例文を用いて，批評文の書き方を示しながら説明した。その上で比べ読みをする詩を配布し，前時までに学習した3編の詩の中から好きな作品を選ばせた。比べ読みの詩は，以下のとおりである。

「発車」 「十五歳」(寺山修司): 1年次で学習済み。青春という内容が共通。
「僕はまるでちがって」 「それは」(黒田三郎): 作者が共通。妻となる女性との出会いを描く。
「飛込」 「飛込」(村野四郎): タイトル・作者が共通だが，飛込みの描き方が異なる。

本稿では「発車」 「十五歳」(図4)を選択した生徒の例で説明する。

<p>☆ 初発の感想</p> <p>ただ あのベルがなりやんだら――</p> <p>F 発とう</p>	<p>発 車 吉原 幸子</p> <p>A 二つ目覚まし時計のようにもうながいこと わたしのなかで</p> <p>B 発車のベルが なりやまない</p> <p>C 柱の傍らに化石して D ポタンを押す</p> <p>E 不きげんな車掌は わたし うすくらい座席の隅に目をつぶって待つ</p> <p>E 不きげんな乗客も わたしだ</p> <p>F 発とう ただ あのベルがなりやんだら――</p>
<p>☆ 内容理解度(初発時)</p> <p>A 大体わかった。</p> <p>B なんとなくわかった。</p> <p>C あまりわからなかった。</p> <p>D ほとんどわからなかった。</p> <p>☆ 内容理解度(授業後)</p> <p>A 大体わかった。</p> <p>B なんとなくわかった。</p> <p>C あまりわからなかった。</p> <p>D ほとんどわからなかった。</p>	<p>☆ 鑑賞のポイント</p> <p>次のことからについて、考えてみよう。</p> <p>一 傍線部A「二つ目覚まし時計」はどの文章にかかりますか？</p> <p>二 傍線部B「発車のベルが なりやまない」とは、文章の中で、何ぞどんな状態にあることを表していますか？</p> <p>三 傍線部C「化石して」とは、どういう状態ですか？</p> <p>四 傍線部D「ポタンを押す」とは、だれが何のポタンを押しているのでしょうか。</p> <p>五 傍線部E「不きげんな車掌は わたし/不きげんな乗客も わたしだ」について。</p> <p>① 車掌と乗客は一般的にどういう役割の人でしょう。 車掌… 乗客…</p> <p>② どうして「不きげん」なのでしょうか。</p> <p>六 第三連から、「わたし」の目的の場所にあるものと、現在の場所の状況はどんな様子だと考えますか。</p> <p>目的の場所</p> <p>現在の場所</p> <p>七 傍線部F「わたし」は「発つ」ことができたと思いますか。理由を含めて考えて書きましよう。</p>

図1 内容理解のためのワークシート

現代の詩 比較用ワークシート 例 二年(組)(番)							
<p>例</p> <p>依万智「思いきり 愛されたくて駆けてゆく 六月、サンダル、あじさいの花」について 与謝野晶子「なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな」と比べて、 その特徴やよさを考える。</p> <p>1. 二つの作品の共通点</p> <p>女性の恋心をうたっている。</p> <p>2. 二つの作品の異なる点(表現方法・内容・気づいたところ・印象などについて比べてみよう)</p>	<table border="1"> <tr> <th>依万智</th> <th>与謝野晶子</th> </tr> <tr> <td>(表現) ・今の言葉(口語)で書いている。 ・「」や空白がある。 (内容) ・好きな人のところへ向かっている。 (気づいたところ) ・季節は六月 ・あじさい・サンダル ・あじさいの色</td> <td>(表現) ・昔の言葉(文語)で書いている。 (内容) ・待つている人がいるような気がして外に出る。(好きな人美しくないかも?) (気づいたところ) ・季節は秋 ・夕月夜 ・花野。月のひかり</td> </tr> <tr> <td>効果・特徴 わかりやすい</td> <td>効果・特徴 わかりにくい</td> </tr> </table>	依万智	与謝野晶子	(表現) ・今の言葉(口語)で書いている。 ・「」や空白がある。 (内容) ・好きな人のところへ向かっている。 (気づいたところ) ・季節は六月 ・あじさい・サンダル ・あじさいの色	(表現) ・昔の言葉(文語)で書いている。 (内容) ・待つている人がいるような気がして外に出る。(好きな人美しくないかも?) (気づいたところ) ・季節は秋 ・夕月夜 ・花野。月のひかり	効果・特徴 わかりやすい	効果・特徴 わかりにくい
依万智	与謝野晶子						
(表現) ・今の言葉(口語)で書いている。 ・「」や空白がある。 (内容) ・好きな人のところへ向かっている。 (気づいたところ) ・季節は六月 ・あじさい・サンダル ・あじさいの色	(表現) ・昔の言葉(文語)で書いている。 (内容) ・待つている人がいるような気がして外に出る。(好きな人美しくないかも?) (気づいたところ) ・季節は秋 ・夕月夜 ・花野。月のひかり						
効果・特徴 わかりやすい	効果・特徴 わかりにくい						

図2 ワークシート 例 オモテ

<p>現代の詩 批評文 例 二年(組)(番)</p> <p>選んだ作品……依 万智「思いきり 愛されたくて駆けてゆく 六月、サンダル、あじさいの花」 比べる作品……与謝野晶子「なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな」</p> <p>の歌は、女性の恋する気持ちを描いているという点で共通している。 の歌との歌は、女性の恋する気持ちを描いているという点で共通している。 の歌は口語で書かれて歌の内容がすんなり理解できるのに対して、の歌は文語で書かれており、意味が分かりにくいということが挙げられる。次に、歌は、自分の好きな人のところへ駆けていく女性の姿が描かれていて、明るく前向きな印象を受ける。しかし、の歌では「あなた」が待っているような気がして外に出たという情景が描かれていて、実際に「あなた」が存在するかどうかも不明であり、の歌に比べて受身的である。の歌は「あじさい」「サンダル」といった言葉から、明るくカラフルな印象を受けるが、の歌では「夕月夜」「花野」という言葉から、しっとりとした情景を思い描くことができる。 以上のことから、の依万智の歌は、六月のカラフルな情景の中で、恋する女性を、明るく健康的に描いていると言える。</p>	<p>現代の詩 批評文 例 二年(組)(番)</p> <p>選んだ作品……依 万智「思いきり 愛されたくて駆けてゆく 六月、サンダル、あじさいの花」 比べる作品……与謝野晶子「なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな」</p>
--	---

図3 ワークシート 例 ウラ

二つの詩の共通する点と異なる点をワークシートに記入させた。その際、ワークシート（図1）で考えた「鑑賞のポイント」を、比べるポイントとして考えられないかと問い掛けた。それでもうまく書けずに悩んでいる生徒も散見されたため、授業後ワークシートを回収し、簡単なアドバイスを記して返却した。

(3) 比べ読みを通して、批評文を書く工夫（4時間目）

板書で本時の学習目標と、批評文の書き方を改めて説明した。その後、批評文の作成に取り組んだ。なかなか書きだせない生徒には、机間指導で問い掛けやアドバイスを行った。批評文作成後、同じ作品を選んだ生徒同士でグループを作り、付箋を用いた相互評価を行った（図7）。他者の文章を評価する際のポイントも板書で示した。

(4) 「判断基準」による指導と見取り

本時（第4時）では、判断基準Bにア・イ・ウの3点を設定して指導することにした。判断基準Bのアは前時までに学習した内容であり、本時の導入の段階で確認した。判断基準Bのイ・ウは本時の展開の前半でワークシートを用いて指導した。生徒たちには、その判断基準Bのア・イ・ウを踏まえた批評文を記述させた。批評文は三段落構成で、第一段落に共通点、第二段落に相違点、第三段落に自分の考えを記述させた。以下の文章は、B状況にあると判断した、「発車」と「十五歳」を読み比べた生徒の批評文の例である。教科書の詩を「の詩」、比べ読みをした詩を「の詩」として表記した。

【B状況の批評文】

の詩と の詩は、うまくいっていない現実を描いているという点で共通している。

の詩と の詩の異なる点としては、まず、詩の背景が挙げられる。 の詩は「夕ぐれ」と書いてあるのに対して、 の詩では「朝」と書かれている。次に、 の詩は主人公が何かに縛られているような感じがするが、 の詩では、前向きに進もうと思えた。

以上のことから、 の詩は、前に進みたいけど、なかなか決意が決まらないことを描いているといえる。

判断基準Bのアにより、文章全体にわたって、二つの詩の内容を把握しているかを確認する。判断基準Bのイ・ウにより、共通点が第一段落に、相違点が第二段落に、自分の考えが第三段落に、それぞれ述べられているかを見取る。この生徒の作品は、判断基準Bのア・イ・ウを全て踏まえているので、おおむね満足できる状況であると判断できた。

第4時終了時点で評価した結果、A状況が16%、B状況が29%、C状況が55%、C状況は全て未完成の文章であった。

第5時は、補充指導の手段として、A状況の生徒の文章4作品を、自分の文章を完成させるための参考として配布した。深化指導としては、「この点についてはどのように考えるか」というように助言して新たな視点を示して考えさせた。その結果、A状況が30%、B状況が62%、C状況が8%となった（図5）。

<p>「発車」</p> <p>「十五歳」</p>	<p>評者</p> <p>寺山 龍司</p>	<p>評者</p> <p>寺山 龍司</p>
--------------------------	------------------------	------------------------

図4 「発車」「十五歳」

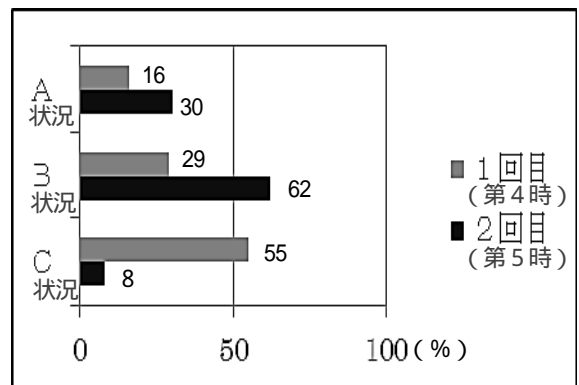


図5 批評文の評価

次は、C状況の生徒が、A状況と判断できる内容に書き改めた「発車」についての批評文の例である。主に変更した部分を太字で示した。

【A状況の批評文】

の詩と の詩は、自由を求めているという点で共通している。

の詩と の詩の異なる点としては、まず、 の詩は「ただ あのベルがなりやんだら 」から、いつ発車とうか迷っていることが分かるのに対して、 の詩は「巢のひばりがとび立とうとしている」から、もうすぐとび立とうとしていることが分かる。次に、 の詩は、「もうながいこと」から、**わたしがいつ出発しようか長い間迷っているのに比べ、** の詩は、「ある朝」から、**ふと思ったことで、**迷っている心情はあまりないという印象を受ける。また、 の詩は、今いる場所と行きたい場所がはっきりしていることが読み取れるが、 の詩は、今いる場所も行きたい場所も読み取ることができず伝わりにくいことが分かる。

以上のことから、 の詩は、行きたい場所は決まっているけれど、「**まといつく風景**」を捨てきれず、**出発できずに迷っている**ということがいえる。 の詩は、行きたい場所ははっきりと決まってい**ないが、とび立とうとしている**ことがいえる。そして、 **ほどの迷いはないが、「日はいつも曇っているのに」**から、**不安な気持ち**ということもいえる。

第二段落に述べている相違点については、詩の中の言葉を引用することを指導したことにより、読み手が分かりやすいように書き改めることができた。また、第三段落については、前時（第4時）までに書くことができなかったが、補充指導で「行きたい場所」と「迷い」を関連付けるという視点を示すことにより、読み深めて書き加えることができた。

10 授業の考察

4時間目の授業の最後で行ったアンケートでは、全員が、詩を読んで自分自身で内容について考えることが「できた」「まあできた」と感じると回答した。また、詩を比べ読みすることで内容理解が「深まった」「まあ深まった」と感じた生徒も100%であった。生徒の感想でも、「ふだんの授業では内容が分からずに、そのままノートを写したから今まで学べなかったが、今回の授業で内容をうまくまとめる思考力が付いたと思います。」「批評文を書くのは難しかったけれど、他の詩と比べることでその詩のよさなどを知ることができたと思う。」といった、肯定的な意見が多く見られた。これらのことから、生徒が今回の授業に対して、自分で考えたという達成感や充実感を得ていることが分かる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 一単元を貫く言語活動を設定し、学習指導を工夫することができた。
- (2) 評価の観点を焦点化し、「判断基準」を明確にしてそれを生徒に示すことで、読み比べたことを基に何をどう書けばよいのかをイメージさせて、目的意識をもたせることができた。
- (3) 補充・深化指導を行うことで、ほとんどの生徒が「おおむね満足できる」状況を満たすことができた。

2 今後の課題

- (1) 補充指導後もC状況だった生徒に対する手立てについては、読み比べてイメージした状況にふさわしい心情を表す言葉を手掛かりにして考えさせるなど、工夫する必要がある。
- (2) 第4時の授業の段階でA評価、B評価の批評文を書いた生徒は、それで満足して更に推敲しようという姿勢があまり見られなかった。補充・深化指導を有効的なものにするための時間設定やその方法を工夫していく必要がある。